

# こどもとしよかんだより 10・11月号

No.67  
2022年10月1日発行



土庄町立中央図書館

小豆郡土庄町淵崎甲1400番地1

TEL (0879) 62-0273



## 【 図書館行事に参加しましょう 】

### 図書館の達人教室

とき 10月30日(日)13時30分～  
ところ 中央図書館  
内容 図書館の仕事を楽しく学ぼう  
対象者 町内の小学生10名程度(先着順)

申込開始 10月8日(土)～  
申し込み順

※くわしくは図書館まで  
お問い合わせください。



### 【閉架書庫見学会】

10月29日(土)  
13時30分～15時  
日頃は、見ることで  
ない閉架書庫。  
年に一度見学  
することができます。



### 【おりがみ教室】

11月26日(土)  
13時30分～



### 【おはなし会】

10月1日(土)14時～ 「スポーツ」  
11月5日(土)10時30分～  
「秋はおいしいものがいっぱい」



10月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	<5>	6	7	8
9	10	11	<12>	13	14	15
16	17	18	<19>	20	21	22
23	24	25	<26>	27	28	29
30	31					

11月

日	月	火	水	木	金	土
		1	<2>	3	4	5
6	7	8	<9>	10	11	12
13	14	15	<16>	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

は休館日・<>は19:00まで開いています。



おすすめの<sup>ほん</sup>本、みつけた



【 給食室のいちにち 】

絵：イシヤマ アズサ

作：大塚 菜生

出版：少年写真新聞社

みんなが毎日<sup>まいにち</sup>食べている給食<sup>きゅうしょく</sup>って、だれがどこでどうやって<sup>つく</sup>作っているか知<sup>し</sup>っていますか？

メニューを<sup>かんが</sup>考える人、そしてそれを<sup>つく</sup>作る人。給食<sup>きゅうしょく</sup>を安全<sup>あんぜん</sup>においしく<sup>た</sup>食べてもらうためにいろいろなことをしていますよ。読<sup>よ</sup>めばどんなことに<sup>き</sup>気をつけているのか、どうやって<sup>つく</sup>作っているのかがよくわかります。

きっと給食<sup>きゅうしょく</sup>がもっと好き<sup>す</sup>になりますよ！



【 ぼくらの七日間<sup>ななか かんせんそう</sup>戦争 】

作：宗田 理 出版：ポプラ社

30年以上も小中学生に<sup>にんき</sup>人気の「ぼくら」シリーズの第1<sup>だい</sup>作目！

中学<sup>はじ</sup>初めての夏<sup>なつやす</sup>休みを<sup>まえ</sup>前にした終業式<sup>しゅうぎょうしき</sup>の日、なぜだか1年2組<sup>だんし ぜんいんうち</sup>の男子が全員<sup>かえ</sup>家に帰<sup>かえ</sup>って来<sup>き</sup>ない！？ 心配<sup>しんぱい</sup>する大人<sup>おとな</sup>の元<sup>もと</sup>にラジオから聞<sup>き</sup>こえてきたのは我が子<sup>わがこ</sup>の声<sup>こえ</sup>で…。

事故<sup>じこ</sup>？誘拐<sup>ゆうかい</sup>？いえいえ、それは大人<sup>はんらん</sup>たちへの反乱<sup>はんらん</sup>の始<sup>はじ</sup>まりだったのです。

10代<sup>だい</sup>に向けたヤングアダルト<sup>む</sup>文学<sup>ぶんがく</sup>の最初<sup>さいしょ</sup>の1冊<sup>さつ</sup>としておすすめです！



【 (鈴木道雄<sup>すずき みちお</sup>物語) 一歩<sup>いっぽ</sup>先<sup>さき</sup>を歩<sup>ある</sup>こう 】

作：那須田 稔

出版：スズキ株式会社

日本<sup>にほん</sup>には自動車<sup>じどうしゃ</sup>の会社<sup>かいしゃ</sup>がたくさんあります。そのひとつであるスズキは軽自動車<sup>けいじどうしゃ</sup>を一番<sup>いちばん</sup>最初<sup>さいしょ</sup>に作<sup>つく</sup>った会社<sup>かいしゃ</sup>といわれています。その<sup>そうぎょうしゃ</sup>創業者<sup>そうぎょうしゃ</sup>である鈴木道雄<sup>すずき みちお</sup>さんは人一倍<sup>ひといちばい</sup>働<sup>はたら</sup>くことが大好き<sup>だいす</sup>で、親<sup>おや</sup>思い<sup>おも</sup>でした。

作業<sup>さぎょう</sup>を楽<sup>らく</sup>にするためにいろいろな機械<sup>きかい</sup>が開発<sup>かいはつ</sup>されます。道雄<sup>みちお</sup>は、はじめは織物<sup>おりもの</sup>の機械<sup>きかい</sup>を開発<sup>かいはつ</sup>しました。それはお母<sup>かあ</sup>さんのため、それから人々<sup>ひとひと</sup>のためでもありました。そしてその機械<sup>きかい</sup>は世界<sup>せかい</sup>でも認め<sup>みと</sup>められたのです。

世<sup>よ</sup>の中<sup>なか</sup>が変わると次<sup>つぎ</sup>は自動車<sup>じどうしゃ</sup>の時代<sup>じだい</sup>がくる！こうして道雄<sup>みちお</sup>は自動車<sup>じどうしゃ</sup>の研究<sup>けんきゅう</sup>をはじめ今<sup>いま</sup>のスズキ自動車<sup>じどうしゃ</sup>をつくりあげていきました。

